

## ■ 概況

12/9～12/15のNYMEX・WTI先物市場は、70.73～71.67ドルの範囲で推移した。

16日は、米景気の先行き期待に加え、前日に発表された週間の米原油在庫の減少を受け足元の需給緩和懸念も後退したことから、続伸した。1月限の終値は前日比1.51ドル高の72.38ドルだった。

週末17日は、3日ぶりに反落し、1月限の終値は、前日比1.52ドル安の70.86ドル。欧米で新型コロナウイルスの感染者数が大きく増えており、行動規制などによる原油需要の減少への警戒感から売りが優勢となった。「オミクロン型」の感染拡大で、英国では新規感染者数が17日に連日で過去最高を更新した。フランス政府は英国からの入国を18日から原則禁止とする。米国では新規感染者数が1か月前に比べて4割増え、ニューヨーク市では複数の劇場の休演が伝わっている。感染拡大とともに人の移動や経済活動が鈍くなり、原油需要を下押しすると観測が強まった。

週明け20日は、新型コロナウイルス「オミクロン型」の世界的な感染再拡大でエネルギー需要の先行きに不透明感が強まる中、大幅続落した。1月限の終値は前週末比2.63ドル安の68.23ドル。

21日は、上昇した。2月限の終値は前日比2.51ドル高の71.12ドル。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」拡大への懸念から前日までの2日間で6%近く下げられており、値ごろ感からの買いが入った。日米欧など主要国の株式相場が反発し、株と同様にリスク資産とされる原油先物も連れ高した。ロイター通信が20日に「OPECプラス」の11月の減産順守率が117%と前の月から上昇し、産油国の増産が想定ほど進ん

でないと報じたのも買い材料視された。

22日は、続伸し、2月限の終値は前日比1.64ドル高の72.76ドル。米エネルギー情報局(EIA)発表の週間の在庫統計で原油在庫が減ったのを受けて、需給緩和の見方が後退した。

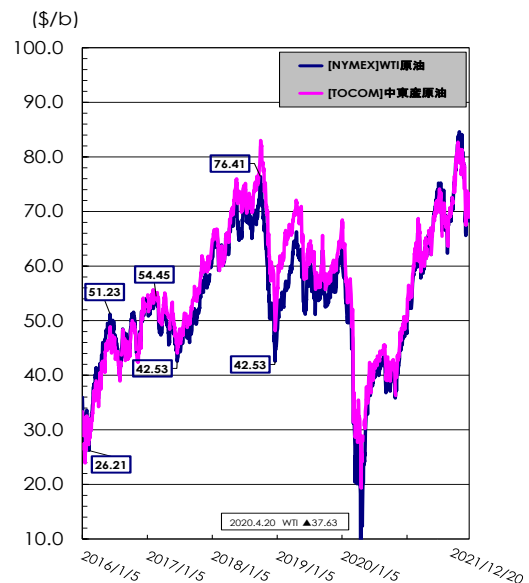
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(2月渡し)は、12月9日～12月15日の間、71.60～75.20ドルの範囲で推移した。12月16日73.40ドル、17日73.30ドル、20日70.20ドル、21日71.40ドル、22日73.00ドルで推移した。

為替は、12月9日～12月15日の間、113.47～113.82円の範囲で推移した。12月16日114.21円、17日113.87円、20日113.62円、21日113.67円、22日114.18円で推移した。

財務省が12月16日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月下旬の原油輸入平均CIF価格は、59,502円/klで、前旬比553円高、ドル建て83.14ドルで前旬比0.91ドル高、為替レートは1ドル/113.80円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、11月の原油輸入平均CIF価格は、58,825円/klで、前月比5,001円高、ドル建て82.07ドルで前月比5.26ドル高、為替レートは1ドル/113.95円。

そのような中で、12月20日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.8円の値下がり、軽油は同0.8円の値下がり、灯油は10円の値下がり(18%ベース)であった。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油も6週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりとなった。この週(12/14～20)の原油コストは値下がりしている。次週及び次々週(12/23～1/5)の大手元売卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5円の値下げとなった模様。

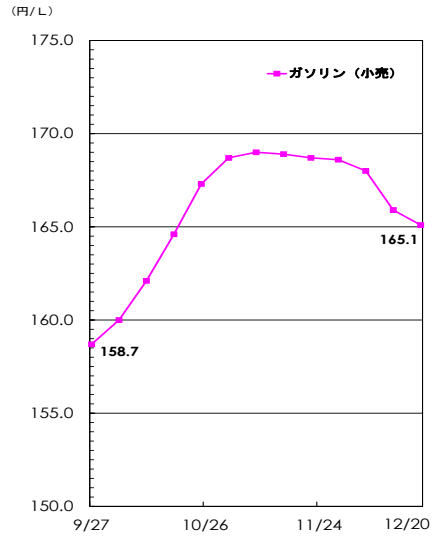
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/12～12/18	3,231 ▲27	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	84.0 ▲0.7	▲-
	原油在庫量 (千kl)	12/18	9,427 ▼-145	▼-
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/20	68.90 ▼-4.61	▲18.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/20	68.23 ▼-3.06	▲20.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月下旬	83.14 ▲0.91	▲40.83
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	59,502 ▲553	▲31,645
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.80 ▲0.17	▼-9.12
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/20	114.62 ▼-0.06	▼-10.22



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/12 ~ 12/18	958 ▲ 49	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	838 ▲ 34	▲ -	
	輸出	"	79 ▼ -37	▼ -	
	在庫	12/18	1,593 ▲ 41	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/14 ~ 12/20	68.7 ▲ 1.0	▲ 22.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/14 ~ 12/20	63.2 ▲ 2.1	▲ 19.4
		(TOCOM/中部)	12/20	67.5 ▼ -0.7	▲ 21.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/20	165.1 ▼ -0.8	▲ 29.7	

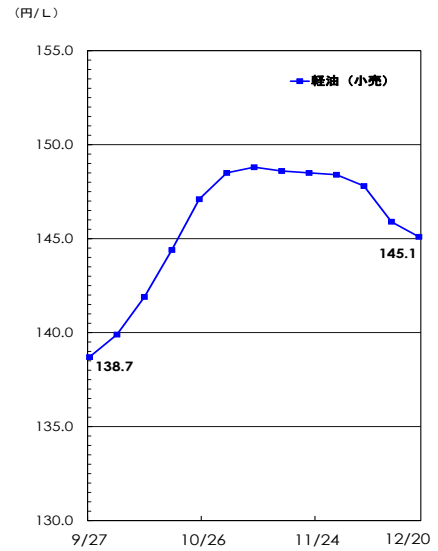
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

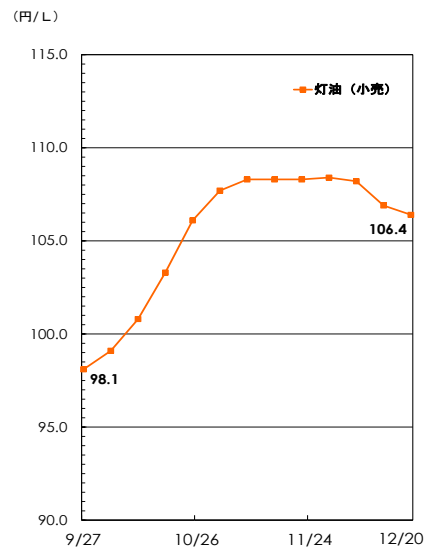
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/12 ~ 12/18	720 ▼ -83	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	632 ▼ -11	▲ -	
	輸出	"	106 ▼ -66	▲ -	
	在庫	12/18	1,371 ▼ -19	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/14 ~ 12/20	70.2 ▲ 1.4	▲ 21.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/14 ~ 12/20	72.8 ▼ -0.8	▲ 22.4
		(TOCOM/中部)	12/20	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/20	145.1 ▼ -0.8	▲ 29.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/12 ~ 12/18	348 ▲ 47	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	487 ▲ 63	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	12/18	2,511 ▼ -139	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/14 ~ 12/20	69.4 ▲ 1.0	▲ 20.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/14 ~ 12/20	68.1 ▼ -0.4	▲ 21.0
		(TOCOM/中部)	12/20	68.5 ▼ -2.0	▲ 20.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/20	106.4 ▼ -0.5	▲ 26.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月22日のNYMEX先物原油は、米原油在庫の減少や対ユーロでのドル安を背景に続伸し、2月限の終値は、前日比1.64ドル高の72.76ドル。3月限は1.51ドル高の72.33ドルだった。米エネルギー情報局(EIA)が朝方発表した17日までの1週間の米原油在庫は、前週比470万バレル減と、減少幅は市場予想(280万バレル減=ロイター通信調査)を上回る結果となった。在庫取り崩しは4週連続。一方で、ガソリン在庫は550万バレル増(予想は50万バレル増)、ディステレート(留出油)在庫は40万バレル増(予想は変わらず)と、強弱まちまちの内容となったものの、原油在庫の減少傾向を受けて供給逼迫懸念が再燃し、この日は買いが優勢となった。

外国為替市場では対ユーロでドル安が進行。ドル建てで取引される原油の割安感につながったことも、原油相場の支援材料となった。

EIAによると、12月20日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.0セント値下がりりの1ガロン3.295ドル(99.6円/ℓ)、ディーゼルは同2.3セント値下がりりの3.626ドル(109.7円/ℓ)となった。ガソリンは6週連続の値下がり、ディーゼルは5週連続の値下がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年12月12日~12月18日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は323.1万klと、前週に比べ2.7万kl増加。前年に対しては11.6万klの増加。トッパー稼働率は84.0%と前週に対して0.7ポイントの増加、前年に対しては3.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。

ガソリン/5.4%増、ジェット/5.6%減、灯油/15.4%増、軽油/10.3%減、A重油/1.9%減、C重油/15.8%増。今週のC重油の輸入は7.0万kl(前週比3.5万kl増)。軽油の輸出は10.6万kl(前週比6.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

前年比ではA重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンの出荷は83.8万kl(対前週4.3%増)と2週振りに増加した。

ジェット7.4万kl(対前週37.1%減)、灯油48.7万kl(対前週

14.8%増)、軽油63.2万kl(対前週1.6%減)、A重油23.6万kl(対前週3.8%減)、C重油31.4万kl(対前週49.6%増)。

(単位:千kl)

	今週 (12/12 ~ 12/18)	前週 (12/5 ~ 12/11)	前週比	
ガソリン	838	804	▲ 34	(4%)
ジェット燃料	74	118	▼ -44	(-37%)
灯油	487	424	▲ 63	(15%)
軽油	632	643	▼ -11	(-2%)
A重油	236	245	▼ -9	(-4%)
C重油	314	210	▲ 104	(50%)
合計	2,581	2,444	▲ 137	(6%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月18日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは159.3万kl、前週差4.1万kl増。前年に対しては40.8万kl少ない。

灯油は251.1万kl、前週差13.9万kl減。前年に対しては19.3万kl少ない。

軽油は137.1万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては18.1万kl少ない。

A重油は73.8万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては6.5万kl少ない。

C重油は175.6万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては16.4万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (12/18)	前週 (12/11)	前週比	
ガソリン	1,593	1,552	▲ 41	(3%)
ジェット燃料	820	792	▲ 28	(4%)
灯油	2,511	2,650	▼ -139	(-5%)
軽油	1,371	1,390	▼ -19	(-1%)
A重油	738	750	▼ -12	(-2%)
C重油	1,756	1,745	▲ 11	(1%)
合計	8,789	8,879	▼ -90	(-1.0%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月14～20日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートは円安であったが、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。

次週及び次々週(12/23～1/5)の大手元売卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5円の値下げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月14日～12月20日の製品スポット市況は、12月7日～12月13日平均と比べ、灯油と軽油の先物取引の値下がりを除いて、他の油種・取引で、値上がりした。

直近週(12/14～12/20)の陸上スポット価格平均値は、前週(12/7～12/13)比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は1.4円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(12/14～12/20)に、前週(12/7～12/13)比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は1.0円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.1円の値上がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は0.8円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (12/14～12/20)	前週 (12/7～12/13)	前週比
スポット価格	レギュラー	68.7	67.7	▲ 1.0
	灯油	69.4	68.4	▲ 1.0
	軽油	70.2	68.8	▲ 1.4

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値平均]		今週 (12/14～12/20)	前週 (12/7～12/13)	前週比
先物価格	レギュラー	63.2	61.1	▲ 2.1
	灯油	68.1	68.5	▼ -0.4
	軽油	72.8	73.6	▼ -0.8

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/14～12/20実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.0	▲ 2.1	▲ 1.6
灯油	▲ 1.0	▼ -0.4	▲ 0.3
軽油	▲ 1.4	▼ -0.8	▲ 0.3
A重油	▲ 0.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

12月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円安の165.1円、軽油は同0.8円安の145.1円、灯油は18%ベースで10円安の1,915円(1%ベースでは同0.5円安の106.4円)。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油も6週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりとなった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは5道県で、横ばいは対象がなく、値下がり42都府県であった。全国最安値は埼玉県の158.2円、その次は秋田県の159.2円であった。他方、最高値は長崎県の176.7円だった。最も値上がりしたのは島根県(前週比1.3円高)で、横ばいは対象がなく、最も値下がりしたのは沖縄県(同2.5円安)だった。

今週(12/14～20)の指標原油価格は値下がりし、為替レートは円安であったが、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。次週及び次々週(12/23～1/5)適用の大手元売卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5円の値下げとなった模様。

次回調査時(1/4)のガソリンの小売価格は、これまでの卸値の転嫁状況を踏まえると横ばいが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/%)			
[週動向]		今週 (12/20)	前週 (12/13)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	165.1	165.9	▼ -0.8	08/8/4 185.1
	灯油	106.4	106.9	▼ -0.5	08/8/11 132.1
	軽油	145.1	145.9	▼ -0.8	08/8/4 167.4

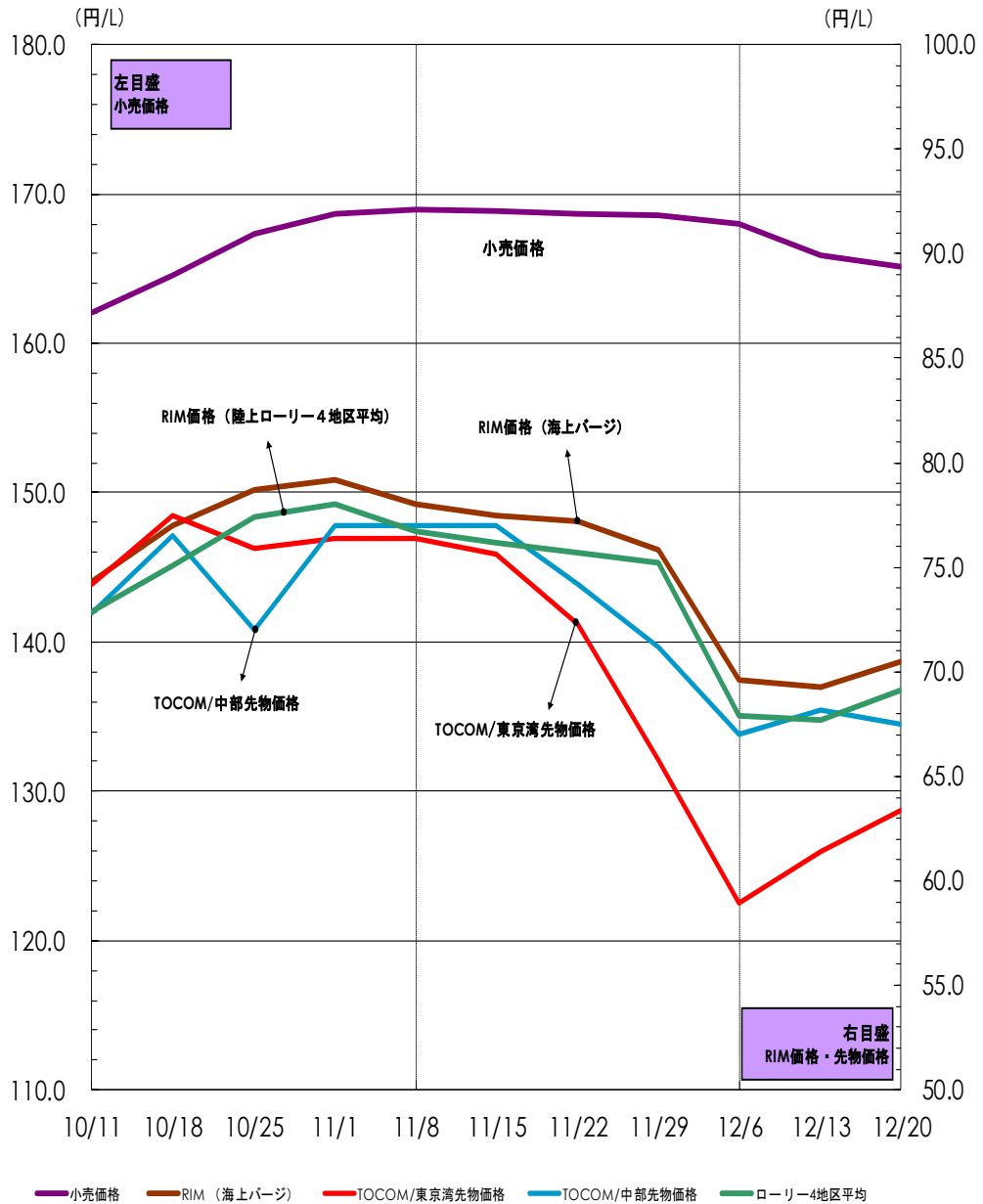
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2021/10/11 ~ 2021/12/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2021第38号) の公表は、1/7 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在) は、8月25日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。